

平成28年度学校評価

～平成29年度に向けて～

1 平成28年度の学校評価

(1) 平成28年度の重点目標

- ア 学ぶ意欲の喚起を目指した授業改善の推進
- イ 信頼され社会で役立つ人材の育成
- ウ 望ましい未来像設計（フューチャーデザイン）の啓発
- エ 保護者・地域・中学校等への情報発信の充実

(2) 本年度の学校関係者評価を実施する主な評価項目

- ア 生徒の主体的な活動を促し興味関心を高めるための授業改善について
- イ 自己肯定感・自己有用感を感じさせる教育活動の推進について
- ウ 自ら将来を考えるキャリア教育の充実について
- エ 本校の教育活動をよりよく伝えることのできる情報発信方法について

(3) 重点目標の達成に向けた取組と評価



- ア 生徒の主体的な活動を促し興味関心を高めるための授業改善について

| 主な取組 | 自己評価結果 |
|---|--|
| <p>(ア) 生徒の取組の意欲を喚起する魅力ある授業づくりを行う。コミュニケーション能力を育成する授業展開を心掛ける。 【教務部・各学年】</p>  | <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業参観週間を設定したが、各教科での話し合いが不十分であった。 ○ 学習評価については、授業中の状況や課題の提出など、様々な視点から生徒の取組意欲を評価したが、効果の検証までは至らなかった。 ○ 研修の機会を持ったが、実践につながるまでには至らない。 ○ 学習学力検討会において、様々な角度から情報を共有することができた。 |
| <p>(イ) 生徒が落ち着いて授業を受けられるよう、学習環境・授業規律の改善、確立に努める。 【教務部・保健厚生部・生徒指導部・各学年】</p>  | <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒が落ち着いて授業に臨むきっかけをつくることができた。 ○ 生徒の登校前に教員が教室整備を行う取組をすすめた。 ○ 教員が授業前に教室に行き、指導した後、授業に入った。 |
| <p>(ウ) 高大連携事業の充実【教務部】</p>  | <ul style="list-style-type: none"> ○ 連携は2・3年理系クラスでの実施にとどまったが、調査を主体にした講座を開設し、主体的に学ぶ機会をもつことができた。 ○ 生徒の学習に対する主体性が高まり、学力意欲の向上もある程度はみられた。 ○ 「科学三昧 in あいち」という愛知県の研究発表大会で成果を報告した。 |

イ 自己肯定感・自己有用感を感じさせる教育活動の推進について




| 主な取組 | 自己評価結果 |
|---|---|
| <p>(ア) 稲東祭(文化祭・体育祭)の充実を図り、生徒に達成感をもたせる。 【特別活動部・各学年】</p>  | <ul style="list-style-type: none"> ○ 定期的に稲東祭実行委員会を開き、稲東祭を自ら作り上げていくという自覚と責任感を持たせた。 ○ 稲東祭事前アンケートによれば、全生徒の60.2%が、稲東祭を楽しみにしていると回答し、例年よりも低い数値であったが、事後アンケートでは94.3%が満足したと回答している。また、稲東祭実行委員会のスタッフは、生徒会役員も入れると38名にものぼり、意欲・意識の高まりを感じている。 |
| <p>(イ) 部活動を活性化させ、参加率が1年生は70%以上、2年生は50%以上になることを目指す。【特別活動部・各学年】</p>  <p>全国高校選抜レスリング大会愛知大会</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 部活動の参加率は10月調査では、1年生が51.8%、2年生が44.5%であった。7月の調査と比べると2学年とも、減少してしまった。 ○ 体育館の耐震工事があり、体育館を使用する部は中学校を借りての練習となったが、意欲的に活動できた。 ○ 職員室前廊下の広報スペースの活用ができ、生徒の関心を高めることができた。  <p>野球選手権大会愛知大会での応援</p> |
| <p>(ウ) ボランティア活動の推進。【特別活動部】</p>  | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校周辺の清掃活動である境界なき清掃団では100名以上の参加があり、指導する教員の手が足りないほどであった。 ○ ボランティア部は稲沢地域で目を見張るほどの実績を残し、代表生徒が稲沢市社会福祉協議会から表彰されるなどした。校内では生徒会執行部と赤い羽根共同募金も実施した。 |

ウ 自ら将来を考えるキャリア教育の充実について

| 主な取組 | 自己評価結果 |
|---|---|
| <p>(ア) インターンシップへの積極的な参加を促し、フューチャーデザインを考える一助にする。 【進路指導部】</p>  | <ul style="list-style-type: none"> ○ 事後アンケートによると参加生徒は高い充実感をもった。 ○ キャリア教育コーディネーター活用事業モデル校に指定され、同事業の支援があり、76名の生徒がインターンシップに参加した。巡回指導等が大変であり、組織的な取組にすることが必要である。  |

| | |
|--|---|
| <p>(イ) 各学校行事において、クラスの中の役割を明確にする。グループの中で果たす自分の役割を自覚させる。 【特別活動部・各学年】</p> | <p>○ 稲東祭を楽しむことができたと答えた生徒は94%にのぼったが、稲東祭の準備は中心となる生徒に頼る傾向が見られた。ただし、事後アンケートでは多くの生徒が団結できたことやいろいろな人と関わったことに満足感を覚えている。</p> |
| <p>(ウ) 個々の適性に応じた進路指導を充実させ、具体的なデザインのための講演会を実施する。 【進路指導部・各学年】</p> | <p>○ 3年間を見通し、適切な時期に講演会等を実施することが十分にはできなかった。体育館の耐震工事も影響した。学年主体で3年間を見通したものになっていない。 ○ キャリア教育コーディネーターを活用し、最適な講師を依頼すべきであった。</p> |

エ 本校の教育活動をよりよく伝えることのできる情報発信方法について

| 主な取組 | 自己評価結果 |
|---|--|
| <p>(ア) 8月の中学生体験入学、10月の中学生学校説明会の内容を充実させ参加者を増やす。 【教務部】</p> <p>中学生学校説明会</p>  | <p>○ 中学生へのアンケートによると、十分に満足できたと答えた生徒は体験入学 65.3%、中学校説明会 84.7%で、昨年よりよい数値であった。また、本校生徒、卒業生にとっても学校への帰属意識を高めるうえで成果があった。 ○ 夏の体験入学で344名(昨年度428名)また、秋の中学生学校説明会では126名(昨年度109名)の参加があった。</p> |
| <p>(イ) 本校を紹介したポスターをつくり、本校広報紙、「稲東だより」とともに配付・掲示する。 【特別活動部】</p>  | <p>○ 「稲東だより」を昨年度と同様、4月、7月、8月、10月、1月の年間5回発行、配付した。 ○ 近隣地域の区長にお願いをし、回覧板にポスター、「稲東だより」を入れてもらうようにした。地域の掲示板などへの掲示のお願いもした。</p> |
| <p>(エ) 学校案内、ホームページのリニューアル、SNSなどの利用 【総務部】</p>  | <p>○ 学校案内はより魅力ある紙面構成を心がけた。稲沢市内の中学3年生には全員に配布した。また、ホームページを全面的にリニューアルした。 ○ YouTubeに公式動画を2本アップした。また、facebook、LINE@も日々の様子を伝え、多くの人が閲覧している。</p> |

(4) 学校関係者評価委員会での御意見

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニングを進める上で重要となるのは評価の部分ではないか。指導と評価の一体化が重要で、子ども達の発想を引き出すことができる。 ・授業の初めに「めあて」、終わりに「振り返り」をしているが、「めあて」を生徒自身に考えさせるとアクティブラーニングにつながる。 ・落ち着いた雰囲気の中で授業ができています。 ・教員が明るく元気に授業をしているのが好印象である。 ・机の配置等に工夫を凝らすべき。従来の配置ではアクティブラーニングはすすめづらいのではないか。 ・大学ではディベート力を付けさせる授業が展開されている。話すことができない社会人はだめ。高校でもディベート力を付ける工夫が必要。 ・パワーポイントは静止画だけではだめで、音とか動画などで工夫を凝らすべき。プレゼンテーション力を教員も身につけなければいけない。 |
|--|

2 平成28年度の重点目標等

(1) 平成28年度の重点目標

- ア 学ぶ意欲の喚起を目指した授業改善の推進
- イ 信頼され社会で役立つ人材の育成
- ウ 望ましい未来像設計（フューチャーデザイン）の啓発
- エ 保護者・地域・中学校等への情報発信の充実

(2) 重点目標の達成に向けた取組

- ア 学ぶ意欲の喚起を目指した授業改善の推進

| 主な取組 | 具体的方策 |
|---|---|
| <p>(ア) 生徒の取組の意欲を喚起する魅力ある授業づくりを行う。また、学習評価についてさらに研究を進める。 【教務部・各学年】</p>  | <ul style="list-style-type: none"> ○ 次期学習指導要領を見据え、アクティブラーニングを取り入れた授業展開となるよう授業改善に取り組む。外部の講演会や研究発表会などに積極的に参加し、手法を学ぶ機会を増やす。 ○ 計画的なアクティブラーニングとケースバイケースのアクティブラーニングの手法など、さまざまな手法を研究し、実践できるよう各教科で研修の機会を持つ。 ○ 課題の提示の仕方、課題提出後の処理を工夫し、家庭学習の充実を図る。 ○ 板書・発問と回答方法に工夫を凝らし、コミュニケーション能力を重視した授業方法を構築する。 ○ 学習学力検討会を資料に基づいて、検討できるようにし、各教科と学年が歩調をそろえて指導できる体制を作る。 |
| <p>(イ) 生徒が落ち着いて授業を受けられるよう、学習環境の改善に努める。 【教務部・保健厚生部・生徒指導部・各学年】</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 身だしなみも含め、学ぶ環境を整え、授業に臨むよりよい姿勢「学びの構え」を身に付けさせる。(教室の掲示物を整え、ロッカー周辺の私物の整理を徹底する。授業中は机上に不要な物を置かせない。) ○ 校内外での授業公開を見据えた「授業規律」の確立と「授業改善」に積極的に取り組む。 |
| <p>(ウ) 高大連携事業等の充実 【教務部】</p>  <p>名古屋文理大学の研究室インターシッ</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 昨年度まで実施してきた SPP 関連の事業を引き継ぎ、さらに発展させる。本年度は国立研究開発法人 科学技術振興機構の「中高生の科学研究実践活動推進プログラム」に採択された。このプログラムに従い、外部機関（名古屋文理大学・名古屋市科学館）と連携した講座を設ける。この講座を通して、学習意欲の向上を計る。 ○ 大学の教員による講義の実施や生徒を研究室に派遣することなどにより、生徒が主体的に学習する姿勢を育成する。 |

イ 信頼され社会で役立つ人材の育成

| 主な取組 | 具体的方策 |
|--|---|
| <p>(ア) ボランティア活動や稲東祭（文化祭・体育祭）、地域活動、部活動の充実を図り、生徒に達成感をもたせる。 【特別活動部・生徒指導部・各学年】</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の清掃活動・交通安全啓発活動・諸活動に部活動単位や個人単位での積極的な参加を促す。 ○ 部活動を通して礼儀や言葉遣いを身につけさせ、コミュニケーション能力の育成を図る。 |

| | |
|---|---|
| <p>(イ) 適切な生活習慣の確立と生活規律の確立を図る。 【生徒指導部・各学年】</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 重点的に遅刻指導をする。遅刻を改善することは意義があるという意識を生徒に持たせる。指導を段階化し、担任、学年、生徒指導部が一体となって、遅刻指導に当たる体制を作る。 ○ 身だしなみを整えさせる。特に女子のスカート指導を推進する。日常的な出会い頭の指導を繰り返すことにより、全教員が指導に当たることを目指す。 ○ 交通法規を遵守させる。特に地域からの苦情も多い、自転車の2人乗りの撲滅を目指す。従来からの登下校の立ち番を有効に活用する。 |
| <p>(オ) 自己肯定感・自己有用感・帰属意識の醸成。 【特別活動部・生徒指導部・教務部・総務部 進路指導部・保健厚生部・各学年】</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校の様々な行事や活動を通し、意義や成果を常に振り返らせ、自分を見つめ、自信や誇りを持たせる。 |

ウ 望ましい未来像設計（フューチャーデザイン）の啓発

| 主な取組 | 具体的方策 |
|--|--|
| <p>(ア) キャリア教育を充実させ、コミュニケーション能力や望ましい勤労観・職業観を育成する。 【進路指導部・特別活動部】</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ インターンシップの機会を設け、積極的な参加を促す。 ○ 協力していただける事業所の新規開拓に努める。 ○ 各行事において事前と事後の指導を充実させ、振り返りをさせる。 |
| <p>(イ) 学習学力検討会を通し、個々の希望に合った進路指導を充実させる。 【進路指導部・教務部・各学年】</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 大学進学目標設定と活用する入試方法を個々の生徒の性格や環境に応じ、適切に選択する。 ○ 補習・土曜学習・外部模試・一般常識テスト・各種検定など、進路に応じ様々な手立てを使い、意識の向上を図るとともに、進路実現の一助とする。 |
| <p>(ウ) 個々の適性に応じた進路指導を充実させ、具体的なデザインのための講演会を実施する。 【進路指導部・各学年】</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年の講演会を工夫し、各学年の進路選択の時期に合ったものを配置する。 ○ 講演会終了後、振り返りを重視し、進路決定に役立てる。 |

エ 保護者・地域・中学校への情報発信の充実

| 主な取組 | 具体的方策 |
|--|---|
| <p>(ア) 8月の中学生体験入学、10月の中学生学校説明会の内容を充実させ参加者を増やす。 【教務部】</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 本校の学習活動や進路指導のシステムなどを中学生やその保護者に積極的に伝える。また、今年度もできるだけ多くの在校生や卒業生に運営の補助を求め、本校の魅力を伝える工夫をする。 ○ アンケート結果から、中学生、保護者ともきめ細かな進路指導について関心が高いため、本校の取組について具体的なアピールに努める。 |
| <p>(イ) 中学校や大学等、外部機関との交流の活性化を図る。 【特別活動部・教務部】</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校との部活動交流を進める。名古屋文理大学との連携や他の連携先の新規開拓に努め、本校の魅力を高めるとともに、それを発信していく。 |
| <p>(ウ) 学校案内、ホームページのリニューアル、Facebook、LINE 公式アカウントである LINE@ 等の有効活用 【総務部他】</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 本校の教育活動をよりわかりやすく伝えるため、デザインや内容を見直し、中学生をはじめとする閲覧者のニーズに応じた情報の提供に努める。様々な媒体を通し、情報発信をする。 |